

## 高齢者の骨折予防・治療と生活支援 《大腿骨近位部》

---

---

---

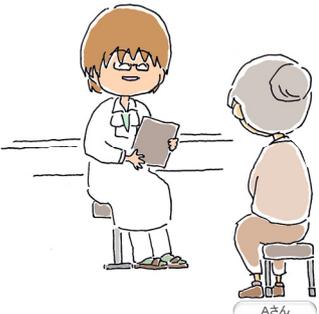
---

---

---

---

---



A doctor with glasses and a white coat is standing and talking to an elderly woman, A-san, who is sitting on a stool. A-san is wearing a brown top and pants. The doctor is holding a clipboard.

【補足情報】  
Aさんは、高等小学校を卒業しています。

Aさん  補足情報を閉じる

佐渡市に住むAさんは82歳で、身長148cm、体重37kgの小柄な女性です。(BMI 16.9) 結婚後、専業主婦として家事をこなしてきましたが、10年前から心房細動のため近くの開業医を定期的に受診していました。現在、その症状は安定しています。 2

---

---

---

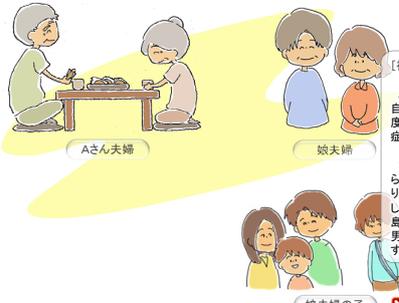
---

---

---

---

---



A-san and her husband are sitting at a table eating. To the right, a daughter-in-law is standing. Below them, three children are shown: a son, a daughter, and a younger child.

【補足情報】  
Aさんの夫の日常生活自立度は、IIbで要介護度Iです。夫は、軽度認知症です。  
娘の家は、Aさんの家から車で30分ほどの所にあります。娘夫婦には、結婚して島外で暮らす長女と島外で学生をしている長男の二人の子どもがいます。

Aさん夫婦  補足情報を閉じる

娘夫婦  補足情報を閉じる

娘夫婦の子  補足情報を閉じる

Aさんは、88歳の夫と二人で暮らしています。夫は、高血圧症、軽度認知症がありますが、家庭内では、ほぼ自立しています。  
子どもは、結婚して同じ佐渡市内で別に暮らす49歳になる娘が一人います。 3

---

---

---

---

---

---

---

---

最近、Aさんは、自宅で転倒して歩行困難になり、B病院の救急外来を受診しました。診断の結果は、左大腿骨近位部骨折で、そのままB病院の整形外科に入院しました。Aさんは、これまでに骨折の経験は、ありませんでした。

4

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

Aさんは、B病院の整形外科に入院後、骨折に対して骨接合術を受けました。

5

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

手術後三日目からリハビリテーションが開始になりました。リハビリテーションの内容は、理学療法による可動域訓練、筋力増強訓練、歩行訓練です。しかし、リハビリテーションの必要性は理解しているのですが積極的ではありません。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

■ 処方内容

インデラル(10)3T/3X

バファリン(81)1T/1XM (朝)

ブルゼニド(12)1T/1 × vds (就寝前)



処方内容は、表のようになります。

7

---

---

---

---

---

---

---

---

■ リハビリ評価

ROM 左股関節屈曲 90°、伸展 -5°、左膝伸展 -5°  
脊柱後弯  
Barthel Index 80点(歩行・入浴・階段昇降・着替えて減点)

■ 骨密度

大腿骨近位部骨密度=0.582 T=-3.46 YAM=65%



リハビリ評価と骨密度は、表のようになります。

8

---

---

---

---

---

---

---

---

■ 心身機能・身体構造 (Body Functions & Structures)

#筋力低下 #易骨折性 #左股関節荷重痛

■ 活動 (Activities)

#歩行障害(室内歩行監視レベル)  
#ADL障害(歩行・入浴等の困難)

■ 参加 (Participation)

#家庭復帰(高齢の夫と二人暮らし)困難



生活機能の評価は、表のようになります。

9

---

---

---

---

---

---

---

---




---

---

---

---

---

---

---

---




---

---

---

---

---

---

---

---




---

---

---

---

---

---

---

---

夫もAさんと同じく、自宅に戻ってきてほしいと考えています。別居している娘は、仕事をしているため、日中はAさんの介護ができないので、娘宅でのAさんの介護は困難と考えています。

13

---

---

---

---

---

---

---

---

現在、Aさんの介護保険を要介護2のレベルで申請中です。

14

---

---

---

---

---

---

---

---

【補足情報】  
夫は、軽度の認知症で、自身の服薬管理が出来ないためAさんが行っていました。  
娘宅へ退院の場合は、娘夫婦が介護者ですが、日中、夫婦共に仕事のため留守となり、AさんやAさんの夫が独居となります。

補足情報を閉じる

Aさんの退院先が自宅の場合、夫は高齢のため介護者の役割を果たすことが困難な状況です。

15

---

---

---

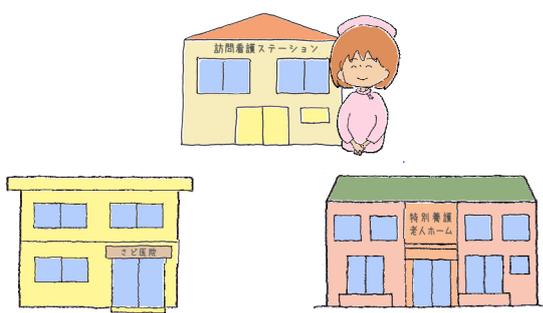
---

---

---

---

---



開業医は近くにありますが、訪問看護ステーション、デイケア・デイサービス施設は車で15分ほどの距離にあります。  
 介護保健施設(特別養護老人ホーム)の待機者は80人程で、今すぐの入所は困難な状況です。

16

---

---

---

---

---

---

---

---



自宅の家屋の廊下は広く段差が多ある農家風のつくりです。トイレは洋式で、本人と夫の居室は1階にあります。  
 自宅に退院の場合は、歩行補助具、シャワーチェア、手すり設置などを検討しています。

17

---

---

---

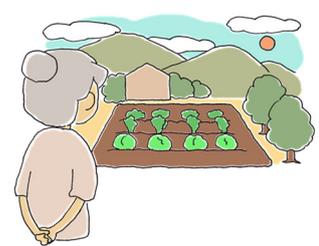
---

---

---

---

---



自宅は、高齢者がほとんどを占める山村の過疎地域にあり買い物は困難です。近隣住民との関係性は良好な地域で、Aさんの畑は徒歩5分の所にあります。  
 自宅周辺には、アップダウンのある舗装道路があります。車の通行量は少なく、歩道の無い道路です。

18

---

---

---

---

---

---

---

---



食事の準備は、全部自分で行ない、三食野菜中心で、魚を日に1回摂取していました。乳製品を食べる習慣はありません。心房細動の内服薬を飲み忘れることがありました。

19

---

---

---

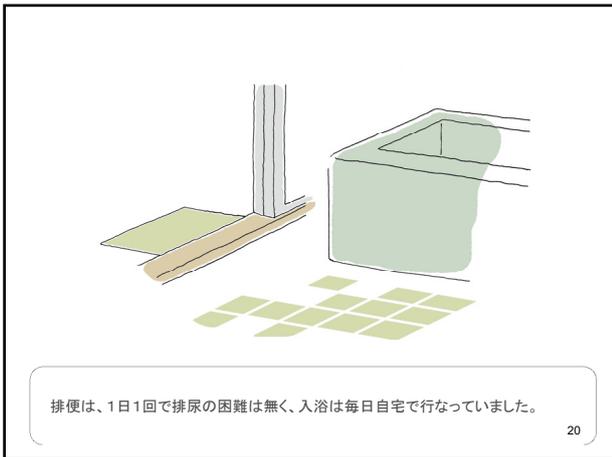
---

---

---

---

---



排便は、1日1回で排尿の困難は無く、入浴は毎日自宅で行なっていました。

20

---

---

---

---

---

---

---

---



洗濯・掃除などすべての家事は夫に任せることなく、全部自分で行なっていました。また、買い物は一週間に1回、娘の車で行ってました。

21

---

---

---

---

---

---

---

---



趣味は特にありませんが、庭の花を育てることが好きです。日中は、畑仕事を1、2時間行い、その他は、近隣住民とお茶を飲んだりテレビを見たりして一日を過ごしていました。

22

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



生活費は、老齢年金の年額 2,791,220円を充てて暮らしていました。

23

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



■ Barthel Index 75点 (歩行・入浴・階段昇降・着替え・排尿コントロールで減点)

Aさんは、B病院を退院して自宅へ戻りました。落ち着いたことと近所の仲間がいるので、自宅に退院できてよかったとAさんは思いました。入院中、一人で家にいた夫が、ずっと心配だったので、もう自分が入院するようないかなうように心に決めました。

病院では、骨を強くして筋肉をつけなさいといけなと言われてましたが、歩くときに不安があるし、痛みが走ることもあります。遠くまで行けないのでどうしたらいいのか分かりません。

24

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



調理はできますが動作に時間がかかります。長い時間立っていられず、両手鍋に水を入れて運ぶなどの両手を使う動作で左股関節に痛みが走ります。

ご飯を炊くことや漬物を切ることなどは、指示すれば夫が行うことができます。洗濯物を干すときも夫に声をかけて手伝ってもらっています。夫は、自ら家事をすることはないので、すべて口頭で指示する必要があります。

掃除は以前よりも行き届かず、娘が来たときに少し整理整頓をする程度です。買い物は、入院前と同様に1週間に1回娘の車でいきます。

25

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



食事の準備が大変なこともあって、昼食は、ご飯と漬物、お茶だけのこともあります。娘が買い物した後、総菜などを作り置きしていただくのですが、1週間分にはなりません。

26

---

---

---

---

---

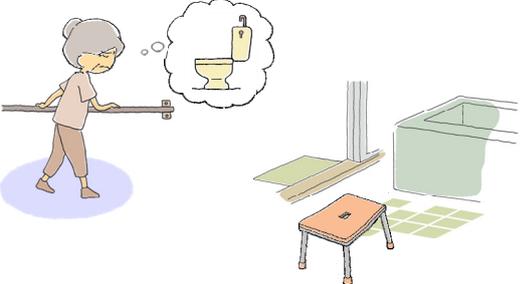
---

---

---

---

---



退院してから3日目に排便があったのみです。トイレまでの廊下に、娘の夫が取り付けくれた手すりがあるのですが、移動に時間がかかり、排尿がトイレまで間に合わないことがありました。排尿困難はありません。夜間の排尿は1回です。

入院前からの習慣で、退院後も毎日入浴したいのですが、準備や掃除が大変でシャワーだけの場合が多くなりました。娘がホームセンターの介護用品売り場で買ったシャワーチェアはありますが、浴槽が深く、タイルで滑りやすく、浴室内に手すりはありません。

27

---

---

---

---

---

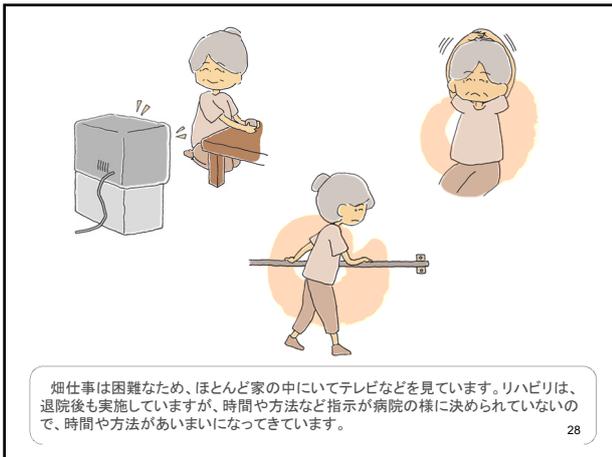
---

---

---

---

---




---

---

---

---

---

---

---

---




---

---

---

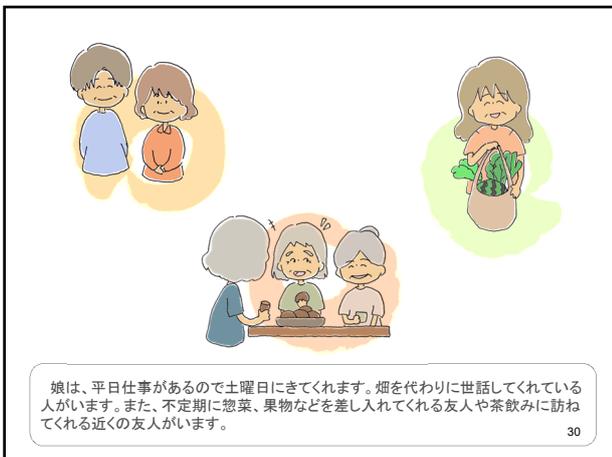
---

---

---

---

---




---

---

---

---

---

---

---

---

制作著作 Copyright © 2011  
「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」  
(文部科学省 平成21年度 戦略的の大学連携支援事業採択事業)  
新潟医療福祉大学・埼玉県立大学・札幌医科大学・首都大学東京・日本社会事業大学

---

原案 Portions Copyright © 2011  
佐久間真由美・丸山敬子・星野恵美子・北村香織・高橋栄明(新潟医療福祉大学)

---

---

---

---

---

---

---

---